

厚木市2014
事業と
予算の
あらまし

みんなであつくり
元気なあつくり



ネットでも最新情報発信中!

厚木市 検索 

広報 
あつぎ
特別号

みんなで作ろう 元気なあつぎ

City Atsugi

市章



市の花 さつき 市の木 もみじ



市の色 きみどり



市のマスコットキャラクター
あゆこちゃん



あゆこちゃん

CONTENTS

- 2…【施政方針】
厚木市に対する情熱を一つに
厚木市長 小林常良
- 4…平成26年度予算のあらまし
- 8…あつぎの元気情熱予算2014
三大改革の推進
 - 1 経済活性化・企業誘致
- 11…2 子育て・教育環境日本一
- 13…3 徹底した行財政改革
- 14…六つの主要項目
 - ①健康長寿・医療・福祉の充実
- 15…②安心安全・災害対策の強化
- 16…③環境・交通先進都市の構築
- 17…④スポーツ環境の整備
- 18…⑤中心市街地などの都市基盤整備
- 19…⑥さがみロボット産業特区の推進



■ 平成26年度 施政方針要約 ■

厚木市に対する「情熱」を一つに

厚木市長 小林常良

市議会2月定例会の初日、小林市長は施政方針演説で26年度の市政運営の考えや重点的に取り組む施策を表明しました。議会では過去最高となる総額1377億435万4千円の「あつぎの元気情熱予算」が成立。市に対する「情熱」を一つにし、市のさらなる発展に向け取り組んでいきます。

平成25年度は、厳しい財政状況の中、市の将来を見据え、持続可能なまちとして成長していくために、必要な事業を精査し、市民の皆さまと共に「総力」を挙げてまちづくりを進めてきました。

特に、皆さまの関心も高く、市の最重要課題の一つとして慎重に整備を進めてきた、「(仮称)あつぎ元気館」は、商業施設と映画館、そして文化・芸術活動や生涯学習活動、親子の集いの拠点となる「あつぎ市民交流プラザ」で構成する複合施設「アミューあつぎ」として、

4月26日にオープンします。「10の条例」は、昨年の市議会12月定例会で「里地里山保全等促進条例」を承認いただき全てが整いました。さらに、本厚木駅周辺の体感治安の向上に向け「客引き行為等防止条例」も制定することができました。このほか、さがみ縦貫道路の圏央厚木インターチェンジ開設や、東名厚木インターチェンジ南部中心地区に誘致した複合型商業施設の完成、県内初の民間メガソーラー「県央厚木第一発電所」の稼働など、官民協働に

よる市の魅力を生かしたまちづくりを進め、「県央の雄都」として着実に前進した年でした。

そして、市民協働によるまちづくりに取り組んできた結果、日本経済新聞社が実施する全国自治体経営革新度ランキングで、全国第1位の評価を頂くことができました。これからも「快適で利便性の高いあつぎ」の実現に努め、日本一の経営革新都市にふさわしいまちづくりを進めていきます。



あつぎの 元気情熱予算を編成

私は、ことしの市政運営のテーマに「情熱」を掲げました。厚木市が「県央の雄都」として、これからもあり続けるために、今、最も必要なものは、まちづくりに関わる人々の「燃え立つような思い」、すなわち「情熱」です。職員はもとより、市民の皆さまの市に対する「情熱」を一つにし、全国に誇れるまちとして厚木市をさらに発展させていくことが、私の役目と強く認識しています。

平成26年度当初予算は、歳入確保や経常的経費の削減など、全職員の創意工夫と「情熱」を結集し、「あつぎの元気情熱予算」として編成。「経済活性化・企業誘致」「子育て・教育環境日本一」「徹底した行財政改革」の三大改革に加え、本市の持続的な発展を確かなものとするため、特に「健康長寿・医療・福祉の充実」「安心安全・災害対策の強化」「環境・交通先進都市の構築」「東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ環境の整備」「中心市街地などの都市基盤整備」「さがみロボット産業特区の推進」に重点的に取り組んでいきます。

平成27年2月 市制60周年

来年2月、厚木市は誕生してから60年の節目を迎えます。市制がスタートした昭和30年当初は人口3万2000人だったまちが、今では22万5000人の人々が暮らす県内有数の都市に発展しました。さがみ縦貫道路などの高規格幹線道路が整備され、人と物の新たな流れが起こり、まさに今、厚木市が大きく



飛躍する舞台が整おうとしています。

市制60周年を契機に、これまでの歩みを見つめ直し、あらためてふるさと厚木に対する誇りや愛着を深めるとともに、将来に向けて希望ある新たな一歩を踏み出していきます。

「げんき! きらめき! だいすき! あつぎ60」。これは市民投票の結果、市制60周年記念キャッチフレーズに選ばれた言葉で、市内の小学5年生が提案したものです。次代を担う子どもたちの思いを受け止め、より魅力あふれるまちを創造していくことが私たち大人の最大の責任であると痛感しました。

60年間、多くの皆さまが情熱を込めて育ててきた厚木市は、ここに暮らす人々の愛情あふれるまちであり、誇るべきまちです。先人のためまぬ努力と今を生きる私たちが築き上げた実績を確固たる自信とし、私は、日本一の経営革新都市の名に恥じぬよう、さらに市民の皆さまと共に、協働を礎とした自主自立の自治体経営に情熱と誇りを持って取り組む所存です。

総合計画「あつぎ元気プラン」に掲げる将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市 あつぎ」の実現のため、市民の皆さまのより一層のお力添えを、心からお願い申し上げます。

全国812市区の行政運営を調査 経営革新度 日本一

市民の皆さんとの協働によるまちづくりの取り組みが日本一の評価を頂きました。

※日本経済新聞社調べ

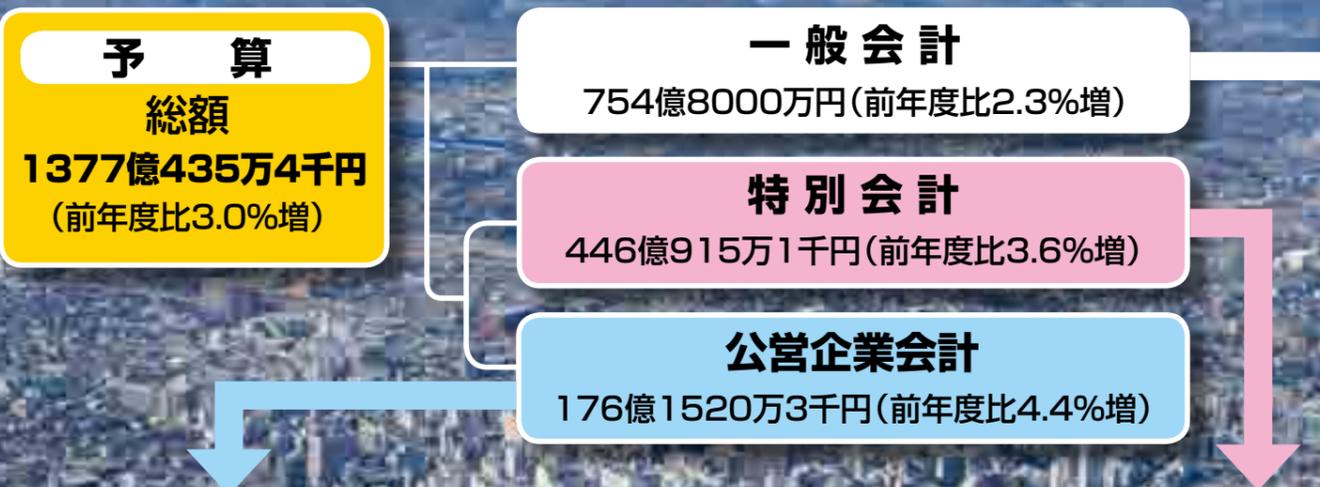
健康と命を守る
あつぎの元気情熱予算

平成26年度 予算 のあらまし

平成26年度の予算は、市民の皆さんの健康や命を第一に、幸せを実感できるよう「あつぎの元気情熱予算」として編成しました。一般会計などの全ての会計を合計した予算総額は、**1377億435万4千円**で、前年度と比較して39億9149万2千円の増額(3.0%増)です。

問 財政課 ☎225局2170

市の予算は3つの会計に分類できます。



公営企業会計は、民間企業と同じように事業収入によって運営している事業の会計で、本市では病院事業が該当します。

病院事業会計

市立病院の運営や建設などを行っています。

- 収益的収支(前年度比)**
収益 90億8454万4千円 (17.2%増)
費用 111億3859万2千円 (36.5%増)
- 資本的収支(前年度比)**
収入 61億747万7千円 (28.4%減)
支出 64億7661万1千円 (25.7%減)

※資本的収支の不足額3億6913万4千円は、損益勘定留保資金で補てんします。

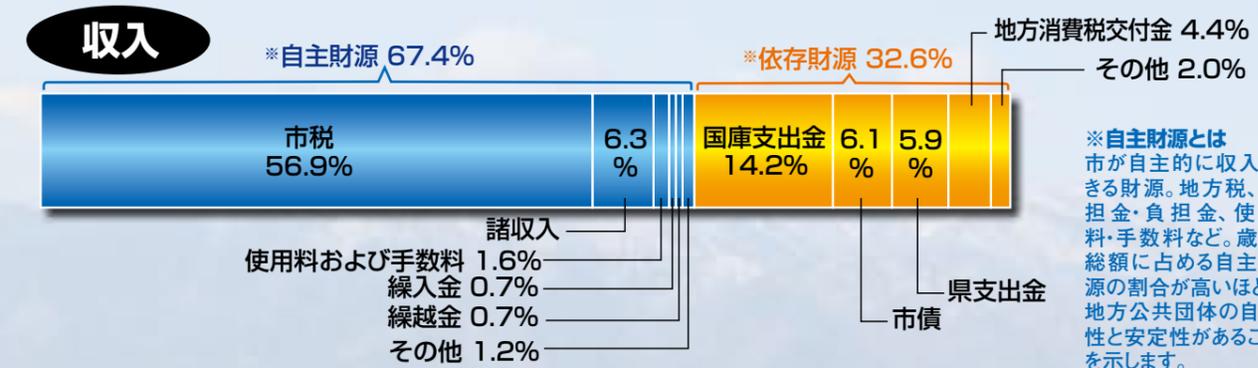
5つの特別会計

特別会計は、特定の歳入を特定の歳出に充て、それぞれの目的に応じて使う会計です。

- ①国民健康保険事業**
260億9600万円(前年度比3.0%増)
国民健康保険料が主な財源で、被保険者が病気やけがなどをした場合の適切な療養の給付などに充てています。
- ②介護保険事業**
103億2600万円(前年度比6.9%増)
介護保険料が主な財源で、被保険者が介護サービスを利用した場合の適切な介護の給付などに充てています。
- ③公共下水道事業**
58億6900万円(前年度比1.1%増)
下水道使用料などが主な財源で、下水道の建設や維持管理に充てています。
- ④後期高齢者医療事業**
19億3700万円(前年度比2.9%増)
75歳以上の高齢者への医療給付などに必要な保険料の徴収などに充てています。
- ⑤公共用地取得事業**
3億8115万1千円(前年度比4.2%増)
公共用地の先行取得に充てています。

一般会計の中身をチェック!

一般会計は、福祉や防災、道路、教育など市役所の基本的な仕事に関わる収入と支出を行う会計です。



市税 429億4747万3千円
市民税や固定資産税、都市計画税など
諸収入 47億8021万5千円
預託金元金収入や雑収入など
使用料および手数料 12億3953万6千円
施設使用料や申請手数料など
繰入金 5億3323万9千円
基金からの繰入金
繰越金 5億円 前年度からの繰越金
その他 8億9784万4千円
保育料などの負担金や財産収入、寄付金など

国庫支出金 107億1701万7千円
使い道が特定されている国からの補助金など
市債 46億1440万円
公共事業の財源とするための長期借入金
県支出金 44億1127万6千円
使い道が特定されている県からの補助金など
地方消費税交付金 33億円
消費税のうち、地方分として市に配分されるもの
その他 15億3900万円
地方譲与税や地方特例交付金など



【市民税】 185億6800万円
個人 143億6400万円
法人 42億400万円

【固定資産税】 196億7300万円
土地 80億6373万円
家屋 83億6457万円
償却資産 31億5270万円
交付金 9200万円

支出



民生費 297億2262万7千円
高齢者や子育てなどの福祉サービス
土木費 94億1698万3千円
道路や公園、河川の整備など
教育費 75億3477万2千円
学校教育、社会教育、スポーツ振興など
総務費 75億3457万6千円
住民登録や交通安全、防犯対策、選挙など
衛生費 69億8475万5千円
健康増進、疾病予防、環境対策、ごみ処理など
公債費 65億3386万4千円
借り入れた市債の返済

商工費 36億5679万4千円
産業政策、商工業、観光振興など
消防費 25億5860万1千円
火災、救急、防災対策など
農林水産業費 6億9474万円
農業や畜産業、林業の振興など
議会費 4億6046万4千円
議会運営など
労働費 2億8182万4千円
勤労者支援など
予備費 1億円

総額
754億
8000万円



どんなことに使われているの？

【貸付金】 28億3450万円

地域住民の福祉増進や地域振興に必要な現金の貸し付けに要する経費

【公債費】 65億3386万4千円

公共事業などの財源として借り入れた市債の返済に要する経費

【繰出金】

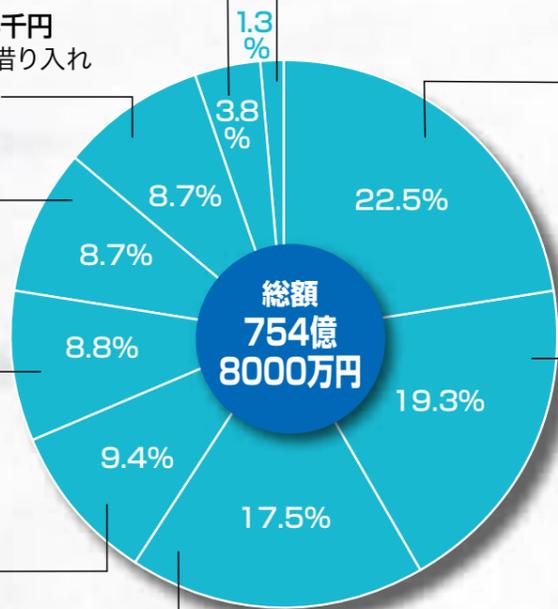
65億7871万7千円
会計間における資金の支出に要する経費

【普通建設事業費】

66億3129万8千円
道路や公園などの公共施設の建設・改良工事などに要する経費

【補助費等】

70億7459万円
病院事業会計負担金や各種団体への運営補助金などに要する経費



【その他】 10億2824万円

維持補修費や基金への積立金、病院事業会計への出資金などに要する経費

【扶幼費】

169億6933万円
児童手当や生活保護費など、福祉のために要する経費

【人件費】 146億59万9千円

職員の給料や議員の報酬などに要する経費

【物件費】 132億2886万2千円
公共施設の施設運営費や消耗品など、市の事務に要する経費



健康と命を守る
あつぎの元気情熱予算

平成26年度
予算
のあらまし

貯金と借金

貯金=基金

年度間の財源調整を行う財政調整基金のほか、教育・文化振興・災害対策など特定の目的のため積み立てている資金です。

借金=市債

学校や道路など、長期にわたって使用する公共施設の整備に必要な市債(長期借入)を発行しています。

<基金の合計額>

37億9059万2千円
(平成26年度末見込み額)
市民1人当たり…1万6846円

<市債の残高>

496億4913万9千円
(平成26年度末見込み額)
市民1人当たり…22万643円

21年振りに
500億円を下回る
見込み

市民1人あたりに使うお金

歳出予算額を市民1人あたりに換算した使い道(目的別)の内訳は、次の通りです。

33万5437円



- 39.4% **【民生費】** 13万2089円 福祉充実のために
- 12.5% **【土木費】** 4万1850円 道路、公園、河川整備のために
- 10.0% **【教育費】** 3万3485円 学校教育、社会教育、スポーツ、文化財保護のために
- 10.0% **【総務費】** 3万3484円 住民登録、防犯などの安心安全対策のために
- 9.2% **【衛生費】** 3万1041円 保健衛生、ごみ収集、環境対策のために
- 8.7% **【公債費】** 2万9037円 借入金返済のために
- 4.8% **【商工費】** 1万6251円 商工業や観光振興のために
- 3.4% **【消防費】** 1万1371円 火災、救急、防災対策のために
- 0.9% **【農林水産業費】** 3087円 農業、林業の振興のために
- 0.6% **【議会費】** 2046円 議会運営のために
- 0.4% **【労働費】** 1252円 勤労者対策のために
- 0.1% **【予備費】** 444円

※人口22万5020人(平成26年1月1日現在)を基準に算出

予算の重点項目

三大改革

- 1 経済活性化・企業誘致
- 2 子育て・教育 環境日本一
- 3 徹底した行財政改革

+

六つの主要項目

- 1 健康長寿・医療・福祉の充実
- 2 安心安全・災害対策の強化
- 3 環境・交通 先進都市の構築
- 4 東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ環境の整備
- 5 中心市街地などの都市基盤整備
- 6 さがみロボット産業特区の推進

あつぎの 元気情熱予算 2014

将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」の実現に向け、三大改革と六つの主要項目を軸に、『あつぎの元気情熱予算』を編成しました。

あつぎの 元気情熱予算 2014

市の総合計画「あつぎ元気プラン」を着実に進めていくため「経済活性化・企業誘致」「子育て・教育環境日本一」「徹底した行財政改革」の三大改革を進めていきます。



三大改革

1 **経済活性化・企業誘致** 地域経済の持続的な発展に向けて
予算額 34億9076万2千円

4月26日
グランド
オープン

1 アミューあつぎ関連事業

予算総額 4億3千万円

中心市街地のにぎわいを創出し、地域経済を活性化させます。魅力ある商業施設や文化・芸術、生涯学習、子育ての複合施設として、子どもからお年寄りまで幅広い世代が交流できる施設を目指します。

【関連事業内訳】

1-1 **アミューあつぎ運営・維持管理事業** 新規

予算額 3億5805万3千円

中心市街地整備課

多くの人でにぎわう施設となるよう、機能を十分に生かしたビル全体の運営と安全で効率的な管理を実施します。

アミューあつぎ映画.comシネマ



1-2 **市民交流プラザ運営事業** 新規

予算額 2335万4千円

文化生涯学習課

最大四つの展示が可能なあつぎアートギャラリーをはじめamyuスタジオ、活動室など全34室を設置。市民の皆さんの生涯学習や文化・芸術活動の推進、世代間交流の促進につなげます。

1-3 **子育て支援託児サービス事業** 新規

予算額 2142万円

こども育成課

施設(市民交流プラザ、商業施設のいずれも)の利用者が子どもを預けられる託児サービスを実施します。全国初の取り組みである幼稚園送迎ステーション事業(11ページ参照)の拠点にもなります。

1-4 **子育て支援センター運営事業** 拡充

予算額 3260万2千円

こども育成課

子育て家庭の交流の場である子育て支援センター「もみじの手」が、アミューあつぎ8階に面積を今までの1.8倍に拡大してオープンします。支援センターの面積は全国トップクラスです。

1-5 **物産販売拠点運営事業** 新規

予算額 460万円

観光振興課



市観光協会が、あつぎ産のおいしい食品や土産品、友好都市の物産などを販売するアンテナショップを地下1階に開設・運営することを支援します。

あつぎアートギャラリー



屋内広場solā



託児室わたくも



地下1階



吹き抜けが開放的だBoo~

新たな産業の拠点に

新規

2 森の里東土地区画整理推進事業

予算額 1億7078万3千円

森の里東拠点整備事務所

コンセプト: EChO CAMPUS (エコーキャンパス) 組合施行による(仮称)森の里東土地区画整理事業の円滑な進行を支援します。平成26年度中に工事着手する計画で、10年後の完成を目指します。

面積は約68㌔

厚木西高校

整備イメージ図



環状3号線 (整備予定)

産業の活性化に向けて

継続

3 企業立地元気アップサポート事業奨励金

予算額 2050万円

産業振興課

新たに立地した企業に対し立地奨励金を交付するほか、市民を雇用した場合に雇用奨励金を交付します。企業立地の促進により市民の皆さんの雇用機会を拡大し、産業の活性化につなげます。



都市農業の発展に向けて

新規

4 厚木市都市農業支援センター運営事業

予算額 92万円

農業政策課

市、農業委員会、JAが連携し、それぞれの専門性を生かした支援体制を整備します。相談業務の円滑化をはじめ農地の有効利用、地産地消の推進、効率的な情報収集・発信に取り組みます。



三大改革

2 子育て・教育環境日本一

親子の笑顔があふれるまちに
予算額 133億1419万円

平成27年4月待機児童ゼロ宣言

1 待機児童ゼロ戦略関連事業

予算総額 10億9000万円

保育需要の増加・多様化に対して戦略的に取り組むことで平成27年4月に待機児童ゼロを目指します。

【関連事業内訳】

新規

1-1 幼稚園送迎ステーション事業

全国初!

予算額 850万円

こども育成課

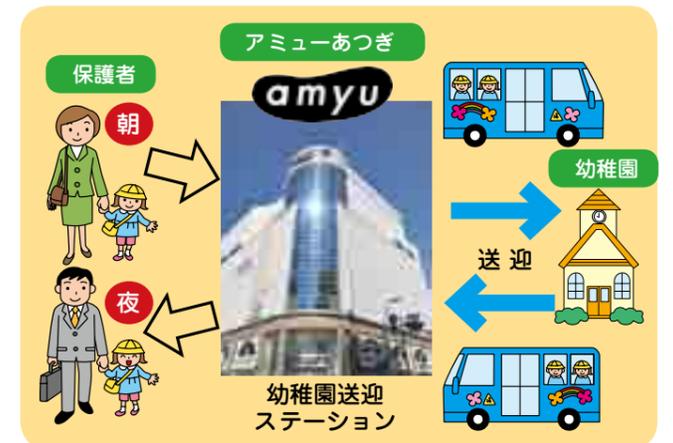
アミューあつぎ8階の託児室を活用し、幼稚園への送迎の中継場所を開設。本厚木駅周辺に通勤し、幼稚園の預かり保育を利用する保護者を支援します。保育所に偏りがちな児童を幼稚園へと誘導することで、待機児童の解消にもつなげます。

1-2 その他の取り組み

こども育成課・保育課

★保育の受け皿を拡大

認定あつぎ保育室の認可保育所への移行や私立幼稚園の認定こども園への移行を支援するほか、新たな認可保育所を整備するなどして受け入れ体制を拡大します。



★適切な子育てサービスを案内

厚木市子育てコンシェルジュ (AKC) が橋渡し役を担い、必要なサービスを案内。地域全体で子育て世帯を応援していきます。



快適な学習環境を整備

2 小学校教室冷暖房設備
設置事業

新規

予算額 2億2601万円(事業期間平成26～28年度)

学校施設課

夏の猛暑などの時にも快適な環境で授業を受けられるよう、全小学校の普通教室に冷暖房設備を設置します。平成26年度は6校(玉川・相川・戸室・愛甲・森の里・戸田小)に設置します。



落ち着いて学校生活を送れるように

3 小学校児童支援
推進事業

新規

予算額 2653万9千円

教職員課

いじめや問題行動、不登校などの課題にきめ細やかな対応ができるよう小学校に非常勤講師を派遣。児童支援体制を強化し、落ち着いた学校生活や学力の向上につなげます。

発達に不安を抱える親子のために

4 療育支援事業

新規

予算額 4144万3千円

福祉総務課

療育支援体制の充実のため、保育所などへの巡回相談、(仮称)発達支援コーディネーターの育成などに取り組みます。就学前の児童を対象にしていた療育相談を18歳未満にまで拡充し、支援の充実を目指します。

子どもたちが自然と触れ合える場所を

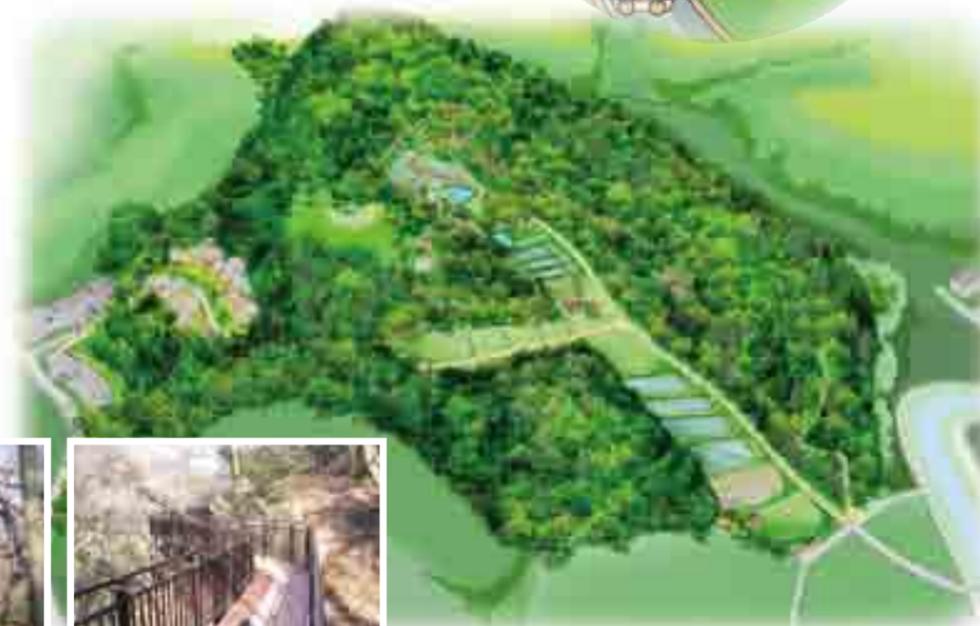
5 (仮称)健康こどもの森
整備事業

拡充

予算額 5億1818万7千円

公園緑地課

豊かな自然の中で伸び伸びと遊び、学ぶことは子どもたちの健やかな成長につながります。将来を担う子どもたちの健康づくりや創造性を育むため、自然体験活動の新たな拠点となる施設を荻野運動公園の北側にある山林に整備。平成27年のオープンを目指します。



滑り台



観察トレイル

整備中

整備イメージ図

三大改革

3 徹底した行財政改革 健全財政を保ち持続的な発展を可能に

1 歳入確保の強化

総額 約17億円

税などの収納対策の強化による自主財源の確保に加え、国庫補助金などの特定財源の確保に取り組みました。

2 歳出の削減

総額 約18億円

職員給与費の独自引き下げを継続。施設の維持管理費や委託料などを見直し、経常的経費の削減に取り組みました。

総額約35億円



あつぎの
元気情熱予算
2014

六つの 主要項目

市民の皆さんの健康や命を第一に、幸せを実感できるよう、三大改革に加え六つの主要項目を重点に据え予算を編成しました。

1 健康長寿・医療・福祉の充実

生涯現役・健康都市の実現に向けて
予算額 659億9451万1千円

誰もが健康で生きがいを持ちながら、元気に暮らせるまちを目指します。



さらなる医療環境の充実に向けて

継続

厚木市立病院建設事業

病院事業会計(継続費・平成24～28年) 129億6944万円

病院建設課

平成26年12月
1期工事完成
医療機能の
70%確保

平成29年3月
全面竣工



ハイブリッド手術室イメージ

1期工事では高度医療の中核となる救急部門、手術部門、集中治療部門(ICU・CCU)、放射線部門と一部病棟を整備。ハイブリッド手術室、血管造影撮影装置室を新たに設置し、放射線治療装置を更新します。

県内初、眼科健診の導入

新規

成人眼科健康診査事業

予算額 272万2千円

健康づくり課

緑内障をはじめとする眼疾患の早期発見・治療につなげるため、40・45歳の市民を対象に眼科健診を実施します。

在宅医療の推進体制を強化

新規

在宅医療推進事業

予算額 689万9千円

健康医療課

高齢化の進展に伴う在宅医療ニーズの増加に対応するため、医療関係者間の連携や人材の育成を進めます。講演会の実施や、マップの作成・配布などで適切な情報を提供します。

療養生活の安定のために

新規

重度障害児メディカルショートステイ事業

予算額 120万円

障がい福祉課

県央地域初

重症心身障がい児の在宅療養が一時的に困難になった場合、医療機関に一定期間入院し、療養生活の安定と介護者の負担軽減・不安の解消につなげます。

地域住民の交流を促進

新規

上古沢老人憩の家建設事業

予算額 1734万3千円
(継続費・平成26～27年度 総額7379万7千円)

高齢福祉課

高齢者の生きがいづくりや交流の拠点となる施設を建て替えます。平成26年度は、新築設計や造成工事などを実施します。

2 安心安全・災害対策の強化

誰もが安心して暮らせるまちへ
予算額 27億5805万2千円

地震や風水害など災害への備えを強化。事故やけがを防止する対策にも取り組みます。



安心して暮らせる災害に強いまちへ

拡充

厚木排水区等浸水対策事業

公共下水道事業特別会計 予算額 2000万円

下水道施設課

下水道施設の整備水準を超える局地的な集中豪雨などによる浸水被害を軽減させるために、本厚木駅周辺の市街地を中心に、雨水処理施設の排除能力の向上に取り組みます。

体感治安向上のために

新規

本厚木駅周辺環境浄化対策事業

予算額 2849万9千円

くらし交通安全課

4月1日に施行される「客引き行為等防止条例」を実効性あるものにするため、「客引き行為等指導員」による中心市街地のパトロールを実施。自治会や商店街、警察との協働による防犯活動も引き続き実施していきます。



快適な施設の提供とともに維持補修経費を削減

新規

公共建築物長寿命化事業

予算額 7億1621万7千円

財産管理課

市民の皆さんが公共施設を安全で快適に利用できるように、老朽化してきた建物の耐用年数を延ばす予防保全工事を実施します。事業は20年計画で、優先度の高い建物から順に実施していきます。

救命率と住民相互の自主救護能力を向上

新規

市民救命サポート隊設置事業

予算額 75万2千円

救急救命課

救命率の向上のため、救急車到着までの応急手当を地域住民が実施する「市民救命サポート隊」を組織します。モデル地区を決め、自動体外式除細動器(AED)の使い方など応急手当の訓練も実施します。



自転車の事故を予防

拡充

児童・高齢者用自転車ヘルメット購入費助成事業

予算額 204万4千円

くらし交通安全課

自転車による事故を未然に防ぐため、市内在住の13歳未満の幼児・児童と65歳以上の高齢者を対象にヘルメット購入費用の一部を助成します。高齢者への助成は県内初の試みです。



3 環境・交通先進都市の構築

環境に配慮した交通先進都市へ

予算額 9億8415万2千円

環境に優しい次世代自動車の普及・実証に努めるほか、自然環境の保全にも取り組みます。



県内トップクラスの設置数

次世代自動車充電インフラ整備事業

予算額 4188万9千円

産業振興課

市内の研究施設で開発された電気自動車の普及に向け、国などの補助金を使い公共施設5カ所(依知北・依知南・睦合西・相川公民館、文化会館)に充電設備を設置します。



地域の新たな交通手段へ

次世代自動車実証実験事業

予算額 76万5千円

産業振興課

地域の新たな移動の足として注目されている「超小型モビリティ」。将来的な実用化に向け、国や企業と連携しながら実証実験を実施します。



自然環境と共生したまちへ

生物多様性地域戦略推進事業

予算額 334万4千円

環境政策課

「生物多様性あつぎ戦略」による事業や、環境学習など市民の皆さんへの普及啓発事業の実施により、生物多様性の保全を進めます。

持続可能な社会を目指して

環境基本計画等調査事業

予算額 600万円

環境政策課

平成27年度からのスタートに向け、環境基本計画と一般廃棄物処理基本計画を改定。多様な環境問題に対応していくための施策や推進体制などを示します。

あつぎの里地里山を未来へ

里地里山保全促進事業

予算額 394万9千円

環境政策課

里地里山の維持・継承を目的に1月に施行された「里地里山保全等促進条例」。計画の策定や有識者による委員会を組織するなど、継続的な取り組みを進めていきます。



4 東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ環境の整備

トップアスリート育成事業を新設

あつぎスポーツアカデミー推進事業補助金

予算額 1483万2千円

スポーツ政策課

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、スポーツ愛好者の拡大や競技力向上を目指します。小中学生を対象にしたスポーツ教室を定期的に開催するなど、長期的な視点に立ったトップアスリートの育成にも取り組みます。



5 中心市街地などの
都市基盤整備

魅力あふれる快適なまちへ
予算額 33億7385万円

施設の再編成や道路整備などを実施し、
快適で住みよいまちづくりを進めます。



より効率的・効果的な施設配置へ

新規

公共施設最適化推進事業

予算額 1億7126万4千円

企画政策課

将来に向け市民の皆さんが安心して公共施設を使えるよう、中心市街地の施設の再配置を進めます。保健センター、老人福祉センター寿荘、厚木南公民館、消防施設の移転などに向けた準備を進めます。



平成26年度内の全線開通を目指して

拡充

よこばやしかみいみやません
横林上飯山線道路改良事業

予算額 2億3760万円

道路整備課

国道412号と県道60号(厚木・清川)をつなぐ路線の年度内の全線開通を目指します。広域的な交通導線を確保し、交通の円滑化につなげます。



安全で快適な生活環境の確保で渋滞解消に向けて

拡充

街路整備関連事業

予算額 12億5933万円

道路整備課・道路用地課

新東名高速道路(仮称)厚木南インターチェンジへのアクセス機能などを高める本厚木下津古久線と、(仮称)森の里東土地区画整理事業施行地区や市斎場周辺へ連絡する厚木環状3号線の整備に向け、用地の取得などを実施します。

さらなる魅力とにぎわい創出のために

継続

中町第2-2地区周辺整備事業

予算額 711万8千円

中心市街地整備課

公共施設の再配置計画を踏まえ、中町第2-2地区(中町一丁目地内)周辺約4.5畝を段階的に整備します。新たな集客の核となる複合施設の内容の検討を進めます。

6 さがみロボット
産業特区の推進

ロボット産業の拠点に
予算額 550万円

県やロボット産業関連機関などと連携し、ロボット産業の新たな集積を目指します。



ものづくり産業の推進とブランド化

拡充

ロボット産業推進事業補助金

予算額 200万円

産業振興課

市内に事業所を置く企業などの共同事業体が実施するロボット分野の製品開発に係る費用の一部を補助します。市内にある企業や大学などの高い技術力を生かし、ものづくり産業の活性化とブランド化を進めロボット産業の新たな集積を目指します。



企業や大学などの高い技術力をマッチング

新規

オープンイノベーション促進補助金

予算額 100万円

産業振興課

神奈川県では県内の企業、大学などが持っている資源を組み合わせ、短期間で商品化する事業に取り組んでいます。生活支援ロボットの研究開発の促進を目指し、事業に参加する市内企業のロボット製品開発・研究費用の一部を補助します。

4月26・27日 アミューあつぎで開催

新規

テクノフェスタ開催事業

予算額 250万円

産業振興課

アミューあつぎのオープニングイベントとして、市内企業などの先端技術を紹介するテクノフェスタを開催します。未来を担う子どもたちが市内企業や大学の優れた技術に触れる機会を設けるほか、ロボットの展示やデモンストレーションなど楽しいイベントも実施します。

さがみロボット産業特区とは

圏央道の整備が進み、厚木市をはじめとした県央地域への関心が高まっています。圏央道沿線の9市2町は、さがみロボット産業特区に指定され、ロボットに関するさまざまな実証実験などが実施されています。

市内では、近い将来実用化が期待される生活支援ロボットのうち、リハビリ用のパワーアシストハンドや災害対応ロボット、盲導犬ロボットなどの実証実験が行われています。



平成27年2月1日
厚木市は市制60周年を
迎えます



(仮称)地域ふれあい都市宣言

市民協働によるまちづくりを進める上で、市民相互のつながりを深めることはとても大切です。市では、市民の皆さんがさまざまな活動を進めるシンボルとなる「(仮称)地域ふれあい都市宣言」を市制60周年記念日に宣言する取り組みを進めています。